



被災者支援の一環として東北に実践宗教学者付講座が開かれ、第1回修了生が出たのは2012年秋以降も仏教

「被災者支援の一環として東北に実践宗教学者付講座が開かれ、第1回修了生が出たのは2012年秋以降も仏教」

「被災者支援の一環として東北に実践宗教学者付講座が開かれ、第1回修了生が出たのは2012年秋以降も仏教」

「被災者支援の一環として東北に実践宗教学者付講座が開かれ、第1回修了生が出たのは2012年秋以降も仏教」

がる臨床宗教師

超宗派で公共性担保



臨床宗教師「研修初日の追悼巡礼。多くの人が犠牲になった場所で慰霊の祈りをささげる宗教師＝宮城

キリスト教、神道、新宗教などの宗教師が受講、被災地だけでなく、それぞれの地域でボランティア活動を行う修了生も増えた。今年になり関西や関東などの地域で支部が誕生、地域ネットワークの構築も始まっている。

◆ 肩書

中でも活発な活動をしているのが九州支部だ。熊本市内の教会で開かれた入門講座をのぞくと、僧侶や牧師、医療、福祉関係者、一般の人々から幅広い層の参加者約30人が集まり、ケアの在り方や宗教者の役割を話し合っていた。「在宅でみとりをした際、その場に宗教師が必要だと思った」。そんな声も飛び出した。

講座の中心は、臨床宗教師で僧侶の吉尾天声さんと糸山公昭さん。個々移動喫茶などにも取り組む予定で「被災地支援で他の宗教の人たちと接し、一緒にできると思った。学び合い、思いを分かち合い、実践できる場を広げたい」。

まだ少数だが、臨床宗教師として働く人も出始めた。僧侶の田中至道さんは今春から岐阜県大垣市の沼口院（沼口論院長）に臨床宗教師の肩書で勤務している。緩和ケアを含めた在宅医療に力を入れる沼口院長が、医療現場、特に在宅医療の現場に宗教師が必要との思いから導入を決めた。

住み慣れた場所ですみづらい最期を迎えるための「地域包括ケアシステム」が

臨床宗教師を構想し、東北大の実践宗教学者付講座開設に尽力したのは、宮城県で在宅緩和ケアに取り組んだ故岡部健医師。研修の際、岡部医師の写真が常に受講生を見守る。ただ、同講座は「臨床宗教師」を独占するつもりはない、という。名称を曖昧させて臨床の場を拡大し、社会のニーズにより応えたいとの思いがあるからだ。

京都市の龍谷大はこれに呼応、東北大の講座と連携し、大学院実践宗教学研究科で臨床宗教師研修を4月から始めた。「震災を機に生まれた宗教師同士の協働」を高く評価する鍋島直樹教授らが担当す

◆ 研修

臨床宗教師を構想し、東北大の実践宗教学者付講座開設に尽力したのは、宮城県で在宅緩和ケアに取り組んだ故岡部健医師。研修の際、岡部医師の写真が常に受講生を見守る。ただ、同講座は「臨床宗教師」を独占するつもりはない、という。名称を曖昧させて臨床の場を拡大し、社会のニーズにより応えたいとの思いがあるからだ。

ただ、「医療との連携には高い公共性が求められる」とも言い、「教師より超宗派というフィルターをかけた臨床宗教師の方が、公共性を担保しやすい」との考えを示す。

僧侶でもある沼口院長は、寺の活用を含めたこれからの地域づくりでも、臨床宗教師が果たす役割に期待を込める。高齢者宅や緩和ケア患者を訪問する田中さんは「自分という存在を通し、亡くなる人の人生観を家族が知り、それが残っていつてもうそれは、細く長くやりたい」と話した。

Mind
こころ

推進される中、「多職種で構成される地域包括ケアには宗教師も必要で、チームとしての在宅医療の現場はスピリチュアルケアができる人材が不可欠」と沼口院長。

ただ、「医療との連携には高い公共性が求められる」とも言い、「教師より超宗派というフィルターをかけた臨床宗教師の方が、公共性を担保しやすい」との考えを示す。